

水草の不思議と魅力

河川や湖沼などの水辺に生える植物には「水草」と呼ばれるものがあり、生育様式によって、沈水性（ちんすいせい）、浮葉性（ふようせい）、浮遊性（ふゆうせい）、抽水性（ちゅうすいせい）に分けられています。

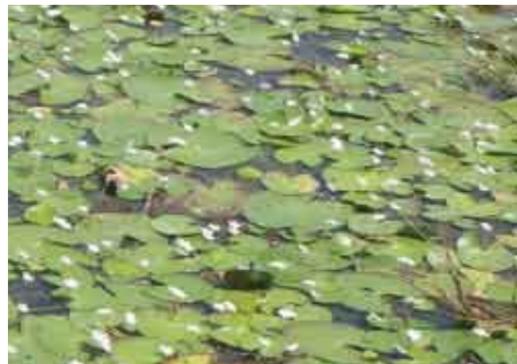
そして、これら水草のほとんどは、進化の過程でいったん陸上に上がった植物が水中での生活に再適応したもので、陸上植物とは異なる生活をしています。

たとえば、水中で生活する水草は、自分で体を支える必要が無いことから陸上植物に比べて茎や葉が柔らかくなっていたり、水分が失われる心配が無いことから乾燥を防ぐ機能を失っていたりします。

また、光が十分に得られる水上や水面近くでは葉の色が濃い緑色をしているのに対し、赤色波長の届きにくい水中では波長の短い青色を有効利用できるように葉の色が黄緑色や赤色に変わる種や、水面より上では大きな葉を展開しているのに対し、水中では細く繊細な葉に変わる種などもあります。

生育段階や生育環境によって色や形を変える水草の不思議に興味を持った私は、「なごや」に限らず各地の水辺をまわって水草を観察し続けていますが、好きな水草の一つにガガバタ（ミツガシマ科）があります。

ガガバタは、初夏から秋に直径1.5cmほどの花を水面近くに咲かせる浮葉植物です。春先に芽を出したガガバタは、数枚の沈水葉を形成した後、水深に応じて長い葉柄をもつ浮葉を水面に展開します。そして更に成長が進むと、細長い茎が伸びて水面近くに節ができ、そこから葉や花を展開します。夏から秋にかけて、ガガバタが大きく成長すると、葉柄の基部に根が変形して太くなり、バナナの房状となった殖芽（しょくが）が形成され、この殖芽で冬を越して翌春を迎えます。



ガガバタ



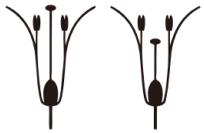
殖芽による越冬

ガガバタの花は株によって、雌しべが雄しべよりも長い「長花柱花（ちょうかちゅうか）」と、雌しべが雄しべよりも短い「短花柱花（たんかちゅうか）」の2種類あり、それぞれのタイプが混生しないと結実できませんが、混生している場所は稀となっています。

そのため、調査の際には花の形を記録することも重要です。



ガガバタの花



長花柱花と短花柱花

また、普段は水面に浮葉を展開するガガバタも、ため池などの生育場所が干上がった場合には、葉の形状が小さく光沢のあるものになり、ある程度の期間は耐えることができます。



陸生形で生き延びるガガバタ

このように、陸域と水域とをつなぐ移行帯に生育する水草にとって、水域の埋め立てや水質汚濁などによる生育環境の悪化によって絶滅が危惧されている種も多くあり、詳しい調査がおこなわれる前に姿を消してしまうものも少なくありません。

ある生物が、その時その場所に生息・生育していた記録（証拠）を後からでも確認ができるようにするためには、その生物の標本を作製し整理・管理する必要があります。

生物を採集せずデジタルカメラなどによって精細な写真を撮ることも可能です。しかし、同じ生物であっても環境や季節によって大きさや形が異なっていたり、見た目似ていることから同じ種類と思われていたものが後の研究によって別の種類であることが明らかとなったりすることもあります。このような情報を比較検討する上でも標本には重要な役割があります。

なごや生物多様性センターにおいても、「なごや」の生物多様性を保全するための資料として、標本を収集・管理しております。普段、何気なく見過ごしているような植物であっても、知らず知らずの間に無くなっていたり、別の種に入れ替わってしまったりすることがあります。そのため、もし標本を作製する機会がありましたら、なごや生物多様性センターにもご寄贈ください。

（生物多様性専門員 中村 肇）

日本野鳥の会愛知県支部の観察会は“だれでも、いつでも、お気軽に”

日本野鳥の会は「野の鳥は野に」を合い言葉に昭和9年に設立され、今年で80年になります。愛知県支部はそれから4年後に中京支部として設立され、戦前から活動する歴史ある団体です。

会の活動は野鳥やその生息地を守る保護活動、野鳥の保全のための調査研究活動、野鳥を通して自然の素晴らしさや他の生きものとのつながりを知ってもらう普及活動を行っています。

その普及活動の一つとして、だれでも、いつでも、お気軽に参加できる野鳥観察会（探鳥会）を開催しています。

だれでも

日本野鳥の会愛知県支部の探鳥会は会員でない方も参加できます。また、お子様連れも歓迎です。

いつでも

日本野鳥の会愛知県支部の探鳥会は予約の必要はありません。当日集合場所に来ていただければ結構です。朝起きて気が向いたら参加という事もできます。

お気軽に

初めての方もお気軽にどうぞ。双眼鏡がなくてもまずは手ぶらで参加してみてください。望遠鏡で野鳥を見せてもらえたり、野鳥の見つけ方を教えてもらう事ができます。パートウォッチングに最適な双眼鏡の選び方などもアドバイスしてもらえます。

野鳥を楽しむ最初の一步は探鳥会から。皆さんの参加をお待ちしております。（前支部長 新實 豊）

八事チアーズクラブ

八事チアーズクラブは、お子さん達が地域の環境問題に気づき、環境学習を通して未来を考える活動をしており、普段は店舗で働く社員がリーダーとしてお手伝いをしています。

イオンでは1991年から木を植える活動を続けてきて、昨年1,000万本超えの節目を迎えました。八事チアーズクラブでも昨年11月2日、知多市で植樹をしました。ここで取組みは平成23年から5か年計画で行っています。以前にも参加したメンバーにとって、自分が植えた木がかなりの丈になっていることは、大きな喜びと親しみに繋がったようです。また、一般参加の方々とも和気あいあいと過ごせ、あっという間に時間が過ぎました。

「市民生きもの調査員」に登録しませんか？

詳細はウェブサイトへ！

どなたでも登録できます

標本を寄贈いただきました

1月31日、渡邊幸子様(愛知植物の会)から、植物標本を寄贈いただきました。今後、センターにて整理し、収蔵します。ありがとうございました。

問い合わせ・申し込み先

住所 名古屋市天白区元八事五丁目230番地(地下鉄塩釜口2番または3番出口から徒歩5分)

電話 052-831-8104 FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生物多様性センターウェブサイト

http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity

なごや生物多様性センター Facebookページ(どなたでもご覧いただけます)

https://www.facebook.com/bdnagoya

名古屋市公式ウェブサイト

http://www.city.nagoya.jp/ 検索

なごや生物多様性保全活動協議会 http://www.bdnagoya.jp



このニュースレターは古紙パルプをきむ再生紙を使用しています。

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

10号

平成26年3月

次代に引き継ぐ なごやの貴重な生きものたち

現在名古屋市では、市内の動植物の生息・生育調査を行い、名古屋市版レッドリストとレッドデータブックの改訂作業を進めています。

本号では、調査の結果明らかになってきた、絶滅のおそれのあるなごやの生物についてご紹介します。



カヤネズミの球巣



カヤネズミ
(撮影：市民協働推進員 宇地原永吉)



カヤネズミの生息地

日本最小のネズミ —カヤネズミ—

カヤネズミは日本最小のネズミで、体重は7gほどです。イネ科やカヤツリグサ科の植物を使って、地面から高さ50～100cm程度のところに球状の巣を作ります。

このような球巣は、ため池周辺や河川敷、湿地に残された草本群落などで見られますが、近年の改修工事や埋め立てによって生息場所は激減してしまったようです。名古屋市版レッドリスト2010では絶滅危惧IB類に指定されています。

生息の確認は、球巣によって比較的簡単にできます。繁殖期の可能性のある春から初冬は避け、1～3月頃に河川敷などの草本群落を探すと見つけれられるかもしれません。

球巣の情報は、名古屋市内のカヤネズミの分布を明らかにするためにも非常に重要です。見つけれられた場合は、ぜひ「なごや生物多様性センター」までお知らせください。

絶滅のおそれのある生きもの

名古屋市は市街地が発達した都市ですが、東部丘陵地の大規模な緑地や河川敷などを中心に、今も様々な生物がすんでいます。その中には、生息・生育環境の変化などの理由から、絶滅の危険のある生きものもいます。

本市では、絶滅のおそれのある野生生物を把握・評価し、その結果を公表することで、絶滅のおそれのある野生生物への理解を深めていただくとともに、適切な配慮を促すことを目的として、名古屋市版レッドリストとレッドデータブックを作成しました。野生動植物の生息・生育状況は常に変化しているため、定期的に調査を行い、評価を見直す必要があります。そのため、この名古屋市版レッドリストとレッドデータブックの改訂に向けて、現在動植物の実態調査を行っています。今回からコケ植物の調査も加わり、全部で11の分類群について調査を行っています。

調査結果を基に現在取りまとめている「名古屋市版レッドリスト2015(案)」を、平成26年4月頃に公表し、市民のみならずご意見を募集する予定です。詳細が決まり次第、広報なごややウェブサイト等でお知らせします。

その後、追加調査を行い検討を重ね、平成27年3月頃に改訂版レッドリストとレッドデータブックを公表する予定です。



レッドリストとは?

絶滅のおそれのある野生生物の種のリストです。

レッドデータブックとは?

レッドリストに掲載された種の生息・生育状況や減少要因を解説した冊子です。



マルタニシ

生息が確認できなくなってから10年近くになります。今回の調査でも確認できていませんので、絶滅した可能性があります。マルタニシは主に水田に生息し、大きさは3~4cmです。愛知県内では、生息場所が著しく減少し、生息数も少ないです。よく似た貝ではヒメタニシがありますが、本種はヒメタニシよりも膨らみがあり、丸みを帯びています。また、オオタニシにも似ていますが、オオタニシは主にため池に生息し、水田にはあまり見られません。



アズマヒキガエル

春先になると水辺で普通に産卵する光景がみられていましたが、ここ数年で産卵にやってくる個体の数が大変減ってきていることが調査で分かりました。さらに、今まで卵を産んでいた場所に、卵を全く産んでいないことも確認されています。

アズマヒキガエルは、丘陵地や公園などに生息します。大きさは体長10~15cmほどで、体色は背側が茶褐色から黒っぽい色をしています。体表はあまりヌメヌメしていません。繁殖期は名古屋市内の場合2~3月で、水たまりやあまり大きくない浅い池などに産卵します。普段は陸地で生活しており、繁殖期以外はほとんど水の中に潜りません。家の庭先の鉢の下など、少し湿ったところにじっとしている事がよくあります。



希少種シンポジウム

「次代に引き継ぐなごやの貴重な生きものたち」を開催しました

調査から明らかになった、なごやの希少種の現状などについてお伝えするため、3月1日(土)にシンポジウムを開催し、調査の中間報告を行いました。シンポジウムでは、レッドリストを担当している各分野の専門家から、調査によってなごやで初確認された生きものがあることや、今まで身近にみられた生きものが見られなくなってきたことなどの話がありました。



クモ類について報告する須賀瑛文委員(中区役所ホールにて)

次代に引き継ぐなごやの貴重な生きものたち

掲示板

生物多様性カフェ 前期の開催予定 (後期は9月から開催する予定です。)

日にち	時間	テーマ・話者提供者	内容	定員・締切	略称
4月10日(木)	19時~20時30分	ボルネオ島のカエル多様性研究の楽しみ 愛知教育大学助教 島田知彦さん	激流の中、岩にしがみついているオタマジャクシ。卵からオタマジャクシにならずに直接出てくるカエルなど、東南アジア、ボルネオ島に棲むカエルの紹介と海外で研究することの魅力などをお伝えします。 	40名 3月28日(金)	カエル
5月10日(土)	10時15分~11時45分	モンゴルで恐竜を掘ってみた 名古屋市科学館学芸員 西本昌司さん	多くの人を惹きつける恐竜化石。科学館でも恐竜展は大人気です。でも、ホントに知ってほしいのは恐竜そのものじゃないのです。アングラな学芸員が、モンゴル・ゴビ砂漠での恐竜発掘の様子や、3月から開催中の特別展「発掘!モンゴル大恐竜展」の裏話をこっそりお話しします。 	40名 4月21日(月)	恐竜
	13時~14時30分	シデコブシ・ハナノキ・ヒトツバタゴの自然史 名古屋大学名誉教授 糸魚川淳二さん	シデコブシはじめ「東海丘陵要素」と呼ぶ種は、伊勢湾を取り巻く地域に生育しており、絶滅が心配されています。その保護・保全について一緒に考えましょう。 	40名 4月21日(月)	シデコブシ
	10時~14時40分	身近な自然を体感! 名古屋自然観察会 滝田久憲さん、佐藤裕美子さん	A 自然観察指導員さんとお話ししてみませんか? (申込不要) B 植田川川辺までフラッとご散歩 当日受付・先着順 《出発時間》①10時30分~、②13時~、③14時~ (1回あたり40分15名まで) 		
	10時~14時40分	ペーパークラフトに挑戦! NPO法人nature works 理事長 小村一也さん 人を自然に近づける「川いい会」代表 石山郁慧さん	昆虫や小動物をじっくり観察してクラフトをつくろう。 (申込不要) 		
6月12日(木)	19時~20時30分	環境問題への取り組みは未来への願い ネイチャークラブ東海代表 篠田陽作さん	今年11月、名古屋国際会議場で、「ESDユネスコ世界会議」が開催されます。ESDとは持続可能な社会の担い手づくりのこと。この機会に、今なにをしたら良いか考えてみませんか? 	定員・締切 40名 6月2日(月)	環境問題

申込方法

①参加希望のプログラムの略称を明記し、②氏名、③郵便番号・住所、④電話番号を書き、Eメール、FAXまたはハガキで「なごや生物多様性センター」までお送りください。複数のプログラムに参加希望の方は、プログラムごとに分けてお申し込みください。定員を超えた場合は抽選(「参加票」は締切日以降に発送します)。締切日現在、お席に余裕がある場合は継続受付しますので、お問い合わせください。

機関誌「なごやの生物多様性」第2巻 投稿募集

なごや生物多様性センターでは、なごやの自然と生物多様性に関する正確な記録を残し、地域で実践されている調査や研究、保全、教育等の取組みを広く発信するために機関誌を発行しています。投稿資格はありません。保全国体、市民、学生、研究者や専門家など多様な投稿者を求めています。第2巻の応募期限は8月29日(金)です。なお、創刊号(平成26年2月発行)及び投稿規程をセンターウェブサイトに掲載しています。
<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity/>

名古屋市内の生きものの分布確認状況をご覧ください

なごや生物多様性保全活動協議会では、なごやの生物情報を集約・一括管理するため、生物情報モニタリングデータベースを構築し、運用を始めています。このデータベースに蓄積した情報を基に、名古屋市内での生きものの確認状況をマップ上でご覧いただける「生物情報閲覧システム」を公開しました。現在は、オオキンケイギクと外来スライムの確認状況をご覧ください。オオキンケイギクや外来スライムは市内のどこに生育しているのでしょうか?ぜひ、ご覧ください。
<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>



第1回 なごや生物多様性センターまつりを開催します

日時 5月10日(土) 9時45分~15時
場所 なごや生物多様性センター
※駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。

見る! 体験する!



なごや生物多様性保全活動協議会の皆さん、高等学校の生物部や科学部の学生さんなどによるワークショップや展示

調査で捕まえたサカナやカメ、標本も見えるよ!



ふれあう! やっとかめ「だなも」も来場と一緒に写真を撮ろう

名古屋科学館、東山動物園、水族館、博物館、環境科学調査センターなども出展するよ

知る!学ぶ! 生物多様性カフェ

実体顕微鏡を使って「ウナギの赤ちゃん」などを見てみよう!

旬産旬消や生物多様性に配慮した農産品のご紹介

開会式では植田中学校吹奏楽部の皆さんから素敵な演奏のプレゼント

盛りだくさんの企画で ご来場をお待ちしています。

ご自身で作成した標本を展示してみたい等、生物多様性に関連した出展を希望される団体・個人の方は、4月10日(木)までにご一報ください。出展条件等をお知らせしたうえで、調整させていただきます。(スペースに限りがあるため、すべてに対応できない場合があります。あらかじめご承知おきください。)